

X . インターロッキングブロック工事

1) 総則

a . 適用範囲

本節は、サンドクッション
ックを用いた、建築物周辺
ない道路などの舗装工事

代工法によるインターロッキングプロ
行者系道路、定常的に大型車が走行し

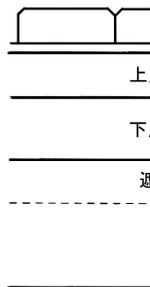


図 - 1 イ



舗装の構成例

2) 材料

a . インターロッキングブロック

(1) インターロッキングブロック

	普通インター
	透水性インター
	植生用インター
	視覚障害者誘
	厚さ 60mm
	厚さ 80mm

	ロック

(2) インターロッキングブロック

(3) インターロッキングブロック

(4) 重量

	規
	N 型 (100 × 200)
	S 型 (100 × 150)

寸法は特記による。
は設計図書による。

単位)	kg/m ²
	130.0
	130.0

b . 砂

(1) クッション砂は、5mm

最大粒径	
5mm	5%以下

内容イメージ

(2) 目地砂は、2.5mm 以下の細砂とする。

(3) 砂はシルトや泥分が少なく、ごみ、小石などを含まないものとする。

(4) 近年透水性を重視した
浸入することによる砂の
ある。

(5) マンホール回りなどの

(6) インターロッキングブ
と、ブロックのかみ合わせ
うに敷設する。このよ

大粒径
2.5mm

・シルトや粘土分など

3) 施工計画

a. 準備

- (1) 施工に当たっては、あ
- (2) 必要に応じインターロ
- (3) 施工に先立ち、路盤の
の据付け状態を確認す

b. 割付図

- (1) 目地幅は 3mm を標準
- (2) 施工上必要な割付け図
- (3) 割付けを行う場合は、
ユール寸法とする。

コン
アスファ

図 - 2

非水性の向上や、クッション砂に水が
砕石(最大粒径 5mm)を使用する場合も

では、空練りモルタルの使用はさける。
ク同士の競り合いによる角欠けの防止
ため、標準として 3mm 程度となるよ
は以下の性能が要求される。

通過分

どを含まないものを使用する。

監理者に提出する。

提出し、監理者の承諾を受ける。

ードレールなど、付帯施設および縁石

図を作成し、監理者の承諾を受ける。

3mm を加えた寸法をブロックのモジ

ングブロック

80
30

クッション

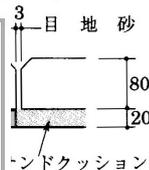
割付け部

ストレートタイプ
 インターロックングブロック インターロックングブロック
 (150×200×90) /

アスファルト

路

図 - 3



ジョイント部

c . 舗装構造

(1) 路盤

- ・路盤材料は、最大粒径による。
- ・定常的に大型車両が通行する路盤に粒度調整砕石を使用する。
- ・路盤材料には、可能であれば、凍上抑制層を使用する。
- ・凍上のおそれのある場合は、凍上抑制層の厚さは 10cm または 15cm で施工する。

(2) 路面の排水勾配の標準

用途
園路・歩行者・自転車道
広場・グラウンド類
車道

(3) フィルター層

雨水が地中に浸透するのを防ぐために設ける。川砂や山砂を使用する。

(4) サンドクッション層

の流出による不陸を防ぐ。標準とする。

(5) サンドクッション層

上のスロープ面や化粧面には、空練りモルタルを使用する。セメント：砂は 1：3 現場で混合させる場合、施工面積の広い場合は

を使用する。その厚さは、設計図書に示す。支持力（設計 CBR）に応じて上層路盤砕石を 10～20cm 使用する。

凍上抑制層の厚さは、一般的に 10

、軟弱な路床が路盤中に浸入することを標準とする。フィルター層には、

透す際に、クッション砂が路盤層へ浸入しないよう、透水シートを敷設する。透水シートは、重さ 60g/㎡

を使用する。ただし、縦断勾配が 8% 以上の場合は、ジョイント部に雨水等を浸透させたくない場合は、下記のとおり注意する。

- ・セメントを使用しよく混ぜ合わせる。
- ・セメントを混ぜ合わせたものを使用する方法もある。

4) 施工方法

a. 路盤の仕上がり状態の確認

- (1) 路盤の凹凸が大きいと認め、路盤面は基準高さの範囲で仕上げられているか
- (2) 路盤面のレベル確認と
- (3)(1)および(2)より路盤面に凹凸が大きい部分に締め固める。
- (4) 路盤材の敷きならしに凹凸が大きい部分に締め固めるに当たっては路盤材を補充する。

b. インターロッキングブロックの敷き

ブロックカッター (重量 10kg)



小型運搬カート (重量 10kg)



積載荷重 15kg

不均一となり不陸が生じやすくなるため、上層路盤では -0.8 ~ ±0cm の範囲で確認する。

確保されているかも併せて確認する。不足している場合は、周囲と同じ路盤材料を補足して十分に敷きならす。

均一に敷きならすと同時に、凹凸が生じないように施工する。

手鋸 (重量 4kg)



エンジンレート (重量 58kg)

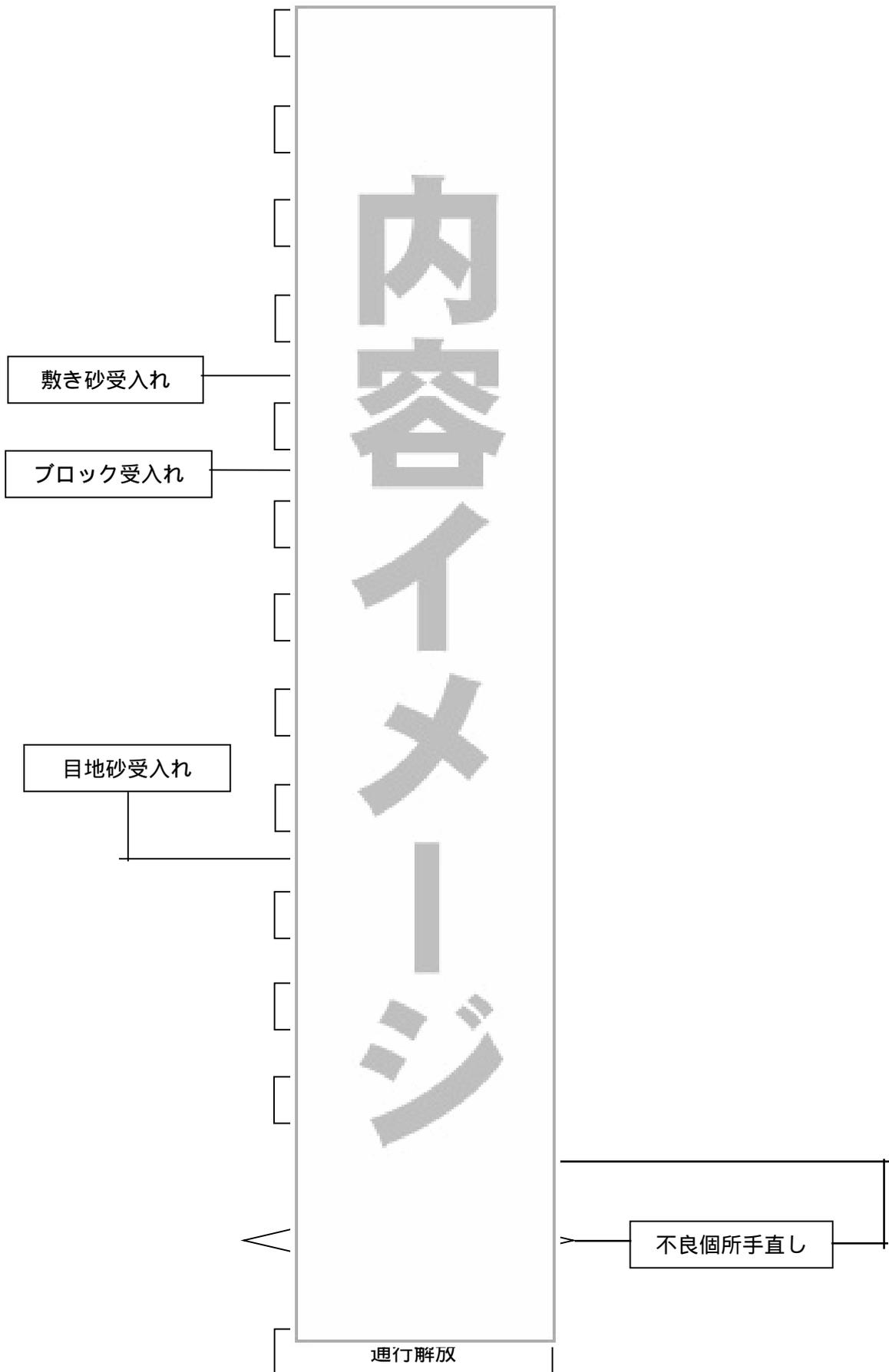


一輪車



内容イメージ

c . 施工フロー



d. レベル出し

(1) レベル出しは、丁張りを設置し、水糸を張ってブロックの仕上がり位置を設定することを標準とする。ただし、縁石や境界ブロックの場合は、縁石や境界ブロックの天端より低い場合に出しすることにより、仕上がり位置を

(2) 排水勾配に加え、L形よう舗装勾配を設定す

e. クッション砂の敷きならし

(1) 適当な間隔でクッション砂を積み置きすると、仕上がりに少量を多くの箇所に均

(2) クッション砂の敷きならし圧代は通常 1～2cm で均

(3) クッション砂は、次に道路以外では、車両走行を転圧した後に、敷きならしインターロッキングブロックを引き、それに砂の転圧を決める。

2本のならし板ガイドをクッション砂を入れた後、ならしを形成する。

エッジガイドを除去し

f. ブロックの敷設

割付図に基づきブロックの

(1) 割付け図をもとに、ブロックを直線で設置されている場合は、水糸を設定する。直角の場合は、直角定規を用いる。

(2) ブロックの敷設は基準

(3) ブロックを敷設するときは、インターロッキングブロックに強く押し付けて垂直に下ろす。これにより適度の目地幅を確保すると同時に、サンドクッションの上に平坦にブロックを敷設することができる。この際、既設の最前列のインターロッキングブロックに足を乗せる

内容イメージ

グ、雨水ます等から雨水が排出される

反置きする。この際、一箇所に多量に、厚さが異なって不陸の原因となるの

厚さに転圧代を加えた厚さとする。転

均一に敷きならす。ただし、歩行者系を防ぐため、あらかじめクッション砂

、インターロッキングブロックの厚さとしてサンドクッションのならし高さを

の天端を所定の高さに合わせ、クッションを滑らせてならし、均一なサンドクッション

とする。



る基準点を設定する。できるだけ長い基準点を通り、直交する2本の基準線きな直角定規またはトランシットを用

て目地ラインを決めてゆく。

と仕上がり後の平坦を損ねる原因となるので注意する。

- (4) 目地調整は、目地通りの修正と目地幅の調整に分けられる。目地通りの修正は、縦横に直交する糸を張り、これを引込んで修正する。目地幅の調整は、目地幅調整用ワイパーなどを差し込んで調整する。

- (5) 路面施設や縁石回りでは、目地幅調整用ワイパーのクッション厚の過大により、目地幅調整が十分にいき、また、カットがうまくいかないことがある。

- (6) 歩道の切下げ部分などでは、目地幅調整用ワイパーのクッションを緩やかな目地幅調整用ワイパーの曲線になるように調整する。

g. 転圧

- (1) インターロッキングブロックの転圧の際のコンパクターの種類によって異なるが、転圧は必ず行う。

- (2) 転圧の速度は歩く速度で行う。ただし、敷設面積が広い場合は、転圧機を使用することができる。

f. 目地詰め

- (1) 目地詰めは、目地砂が十分に充填されるように行う。

- (2) 目地砂はブロックの目地幅に合わせた目地砂を使用し、目地幅調整用ワイパーなどで目地幅調整を行う。

h. 仕上がり確認

- 施工後、ブロックの破損や目地調整を確認する。
- (1) インターロッキングブロックの形状・色・表面加工・端部の処理を確認すること。
- (2) 敷設されたインターロッキングブロックの角欠け・変形・きず・ひび割れがないこと。

- (3) 目地砂が十分に充填されていること。
- (4) 個々のブロック間に 3mm 以上の段差がないこと。
- (5) ブロック舗装面の勾配は設計図書に指示されたとおりに施工されていること。

内容イメージ

目地通りの修正は、縦横に直交する糸を当て、木槌でたたいて押等によりブロックを前方に移動させて不足が生じている箇所にパールやドラ

目地調整用ワイパーなどを使用する。目地幅調整用ワイパーのクッション厚の過大により、目地幅調整が十分にいき、また、カットがうまくいかないことがある。

目地幅調整用ワイパーの曲線になるように調整する。

転圧は必ず行う。ただし、敷設面積が広い場合は、転圧機を使用することができる。

目地砂はブロックの目地幅に合わせた目地砂を使用し、目地幅調整用ワイパーなどで目地幅調整を行う。

目地幅調整用ワイパーのクッション厚の過大により、目地幅調整が十分にいき、また、カットがうまくいかないことがある。

目地幅調整用ワイパーの曲線になるように調整する。

目地幅調整用ワイパーのクッション厚の過大により、目地幅調整が十分にいき、また、カットがうまくいかないことがある。

目地幅調整用ワイパーの曲線になるように調整する。

目地幅調整用ワイパーのクッション厚の過大により、目地幅調整が十分にいき、また、カットがうまくいかないことがある。

目地幅調整用ワイパーの曲線になるように調整する。

(6) 目地の通りが確保されていること。

(7) 縁石やマンホール等の路面施設、他舗装材との取合い部で隙間や段差が大きく生じていないこと。

(8) ブロック表面に残った

るので、きれいに掃き取られているこ

内容イメージ